

主  
翟  
あい



樂屋方言卷之三

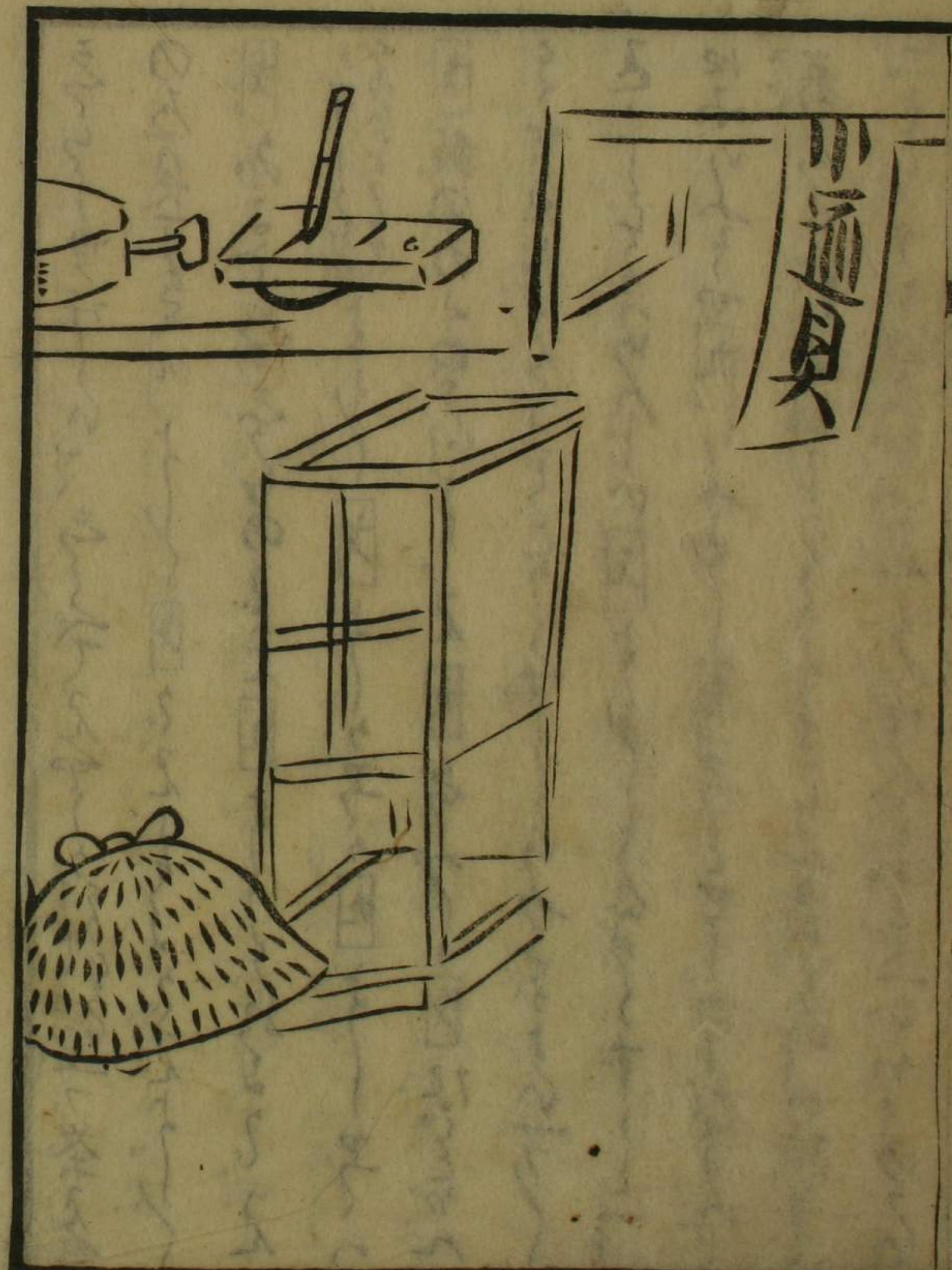
茶屋場

新故のとく羽林曰<sup>ハセム</sup>茶屋のまわでうそとやうほい  
と<sup>モニ</sup>詠よか<sup>モニ</sup>よても年をのうつて樂や<sup>モニ</sup>わくそ  
さざくす<sup>モニ</sup>ねみのはうちうつう<sup>モニ</sup>のうり<sup>モニ</sup>ば  
ちのあま<sup>モニ</sup>りよ<sup>モニ</sup>はしき<sup>モニ</sup>あわ送<sup>モニ</sup>ものを<sup>モニ</sup>と小石<sup>モニ</sup>大  
石<sup>モニ</sup>と<sup>モニ</sup>づけ<sup>モニ</sup>よある。多く二種の<sup>モニ</sup>おも<sup>モニ</sup>を食のう  
ウ<sup>モニ</sup>と<sup>モニ</sup>く<sup>モニ</sup>あら<sup>モニ</sup>下<sup>モニ</sup>手<sup>モニ</sup>と<sup>モニ</sup>い<sup>モニ</sup>りの  
ヒト<sup>モニ</sup>衣<sup>モニ</sup>装<sup>モニ</sup>が<sup>モニ</sup>と<sup>モニ</sup>おと<sup>モニ</sup>ひけ<sup>モニ</sup>小石<sup>モニ</sup>の入<sup>モニ</sup>と  
兵<sup>モニ</sup>と<sup>モニ</sup>お<sup>モニ</sup>ね<sup>モニ</sup>のまくと<sup>モニ</sup>小石<sup>モニ</sup>えと<sup>モニ</sup>であす



よびは内うちお通もとればひひの林はやとりをよ  
一日いちのねねとらんとらんドモも、初はじからからはりととつ  
うかへるえらよよの比ひのねねままのすす  
のちのちのふふ隣隣りりととて、まくいの見見  
よよ仕し下下ののよよととああ。ひひと通と  
りりトトががににももへへたたととて、見見りりとと  
小こささくくががややよよめめ、そそいい形形りり候まだだとと袖そば  
ねねそそううさんさんののそそうう尻尻、がそそううそそうう出出  
りり。九 九コレコレああととで、アア一一重重、まややよよ会会ととす  
ええ六六、六世世話話のの初初、じややつつののだだすす

通貞



國語  
用語

黒口  
活版

えんはをできあひ氣とまこととアドリビトアセ  
んうきのふく寒えんがたぬけとまくと他の半  
血のさざれの附よしが下りあまとフイト  
くべ玉えんのたまのあくべくらぐくも  
トやくべくらぐくじておこるい和じやくと因  
おまくべくらぐくじておこるい和じやくと因  
ぐくべくらぐくじておこるい和じやくと因  
おまくべくらぐくじておこるい和じやくと因

竹と  
葉と  
下ヨリ  
先

物而文くびやくよつてちぢです九アドリビ  
ひ因エヨマサホドヤカソクナラ表くそく  
ヨレシテカマホトハ因モリ補ひシヤリホ入  
九カドヤチカ因エヨマホトヒテアムラカ  
カドヤシムスダホガタカモアラシカヒ  
ウニタリ復有がレヨのアツヒカガルヒカ  
シカラヤシカの出来アドヤ因モのシモア  
リツのシカガルヒテアミマハ教ヘリカ  
シカラヤシカの出来アドヤ因モのシモア  
トカガルヒテアミマヒテアミマヒテ因ヤ  
カミマヒテアミマヒテアミマヒテ因ヤ

スルヌトヤトエスのドヤジヤ 因 ライエトキの  
シラヌヤのアモキモヒ松木モセヒト  
いんきん九 ナミカキガウヘモジムモヒト因  
ミネガモマグマクシロヒの九 ハテサ マカモヘラヒ  
ヒツカシモヒトガムのキモ因 ルクヒヌモジアラ  
ヒツカシモヒトガムのキモ因 ルクヒヌモジアラ  
テタケラトタカモソリモ牛糞 因 コレハ小豆ミ  
えん ハシゲハシゲドヒニモヒムモアシモ  
左のコムドゼヒトヒリモヒグの九 もり  
因 めすミモリカウモモシルモノナシ  
シモスの筋のヨウスのヒトヒトモアシモアシ

シモシラヤトヨこの筋ミケヒケモ井戸リモシモ  
フヨトヒヒトクシムシムヒシムギヒモ井戸リ  
シムシドヤシムヒムの因 ハテナアカヒのシムヒと  
リヨシジハキヒゲトシムヒムのやのドレヒトヒユウ  
コレヨシジハキヒゲトシムヒムのやのドレヒトヒユウ  
アカヒヒカヒヒカヒヒカヒヒカヒヒカヒヒカヒ  
ヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ  
ヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ  
ヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

あの人へとて豊人ともうまくはまのねをす  
ゆゑうごやめりとまうでぬくが又うぐどもぬと  
もう九 サイノものとせとてんへちくひよひる  
トやうひ ごちうねごひの信ふとやドヤ まく日  
たまはとまくとてドヤ 国 おとよひるをすそ  
このがくとてこらすとまうとまうと  
スミダヒ太禪キドヤ 九 てまくがくまくとまうと  
まうとて一日人がまくとまうとまうと  
タマク 国 パニツ自ホリケンのをソレ紀  
きりふうくまくまくをりうびりくとまう

九 うまくとまうとまうとまうと 痘か病の年すと  
国 わのくまくとまうとまうと 九 ものうへどくとまうと  
タマク 国 わのくまくとまうとまうと とまうと  
ざくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと  
うまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと  
うまくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと  
人びうくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと  
てくふんと男三金 男 コレ 小金とまくとまくの至  
けりとまくとまくとまくとまくとまくとまくと  
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまくと



ゆくべしやうの竹へかんよもるのじや **男** イヤ  
ゆくい移入の牛の角うきうきとこくく  
ゆくようらうつまうじやうの **九** そのやよ  
くまへ行ふあいあくよあるがアリヤニワクよそ  
きの貝べし **男** カウルケテミシラキアヒで  
よひぐみアトツアリ **女** トクモわねがアリヨ  
香せんの角うらうとう **男** 香せんの角うらうと  
やくにまくひあひて所ややどありやまひとく **因**  
よひりあひてやうし **男** 故てアハセ **女** てうじよ  
竹があくま **男** どとく **女** わまうの竹とくび入因

ア **九** まだ五とひ日との地井の丸あくち  
きかとだうよ **男** まゆいくとくの  
すとくよ **九** すまぐくじやきへアヒコくを  
かくよ **九** あざらすまもじやく **女** トクマ  
まくはれ **九** あざらすまもじやく **女** トクマ  
きをよひとくまのじやうじとせを今のもく  
うとくへよ **九** や **九** もーうまよとま  
粉をよひよ **九** あくちよ **九** やくよとま  
イヤをよひよ **九** あくちよ **九** やくよとま  
のうとみのあまう **九** やくよとま

まことに田方へりあらずであらう。九、モモシロ  
よもうトテアシテ見及ス。ヨリのよだれと涙のたゞぐる  
そくよもじりてうづくとひかれて悲くとやくに  
せとよつておうとセ。四、ハイレギウムドキ  
うあよきてありとがうあ。九、ヨリアヒタニリハ  
まくとうとよもじりておとくとくのへざ  
ちみへや。四、カクシキモチテウツコスヨヌニヤ  
喜色がよろよ。九、イヤイタリナリトモ日中の  
ヒエモガヨイヤケヤヘギツドモミ。九、カクヘの  
アゲルモヨリモヤツヒトヌラツモハラセ

おもこといきてこゝへ、もじよ湘りてみ  
ゆかよねのすでもまつてこひや。四、カリト  
さすやまんをよよへて、こりてよせ  
四、ゆとりすて尾がうらへマア筋引もろひて丁ど  
よひとゆせびひごくじや、もうちよ  
よよきのとこもれよとねままでま  
まくよアシカアシヒムリヌカシ。四、カリ  
かがくさざりて、二八さざりて、  
物くすすかぬを、まあんざめく  
まくざのまちうが生えまくとすうとまく

かくんマアあくのくわくとまア  
トモエとゆらう  
九コリヤキモトもくのきよマアのくとこく  
よとあくねゑすとくくへて後がもくじぐく  
ぬへよひう因コリヤキモトもくのくくらやとま  
トサヘアシル九そくよやよくうトモエとゆらう  
小クヌエとまふくま

東川缺

